

第4回 栃木県立益子芳星高等学校 学校運営協議会 報告

開催日時 令和7年3月14日(金) 14:30~16:30

開催場所 本校会議室

出席委員 大塚 昌哉 佐久間藤也 小倉 美保 加藤 義勝
池田 範夫 宮下 博幸 保坂 一哉 宇都木修一

1 開会

2 会長挨拶

先日、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰の表彰式に参加してきた。これは地域とともにある学校づくり、学校を核とした地域づくりを進め、未来を担う子供たちの成長を地域全体で支える社会の実現を目指すことを目的に行っているものであり、具体的に言うと、ましこ未来大学での駄菓子屋楽校や陶器市ボランティア、インターンシップの協力などの地域と学校が連携・協働した取組の模範校として表彰されたものである。取組の実践者であり主役である生徒およびその指導に当たった先生方を祝福したい。そして、地域と学校との懸け橋として学校運営協議会の取組も評価されていると感じている。この表彰を励みに、今後も生徒のためにその成長を願って、地域と学校が引き続き一体となって取り組んでいきたいと考えている。

3 学校長挨拶

卒業式、高校入試と多くの方々に様々な場面で大変お世話になりました。今後、3/24(月)が修業式、3/21(金)が球技大会となっており、生徒達は球技大会を楽しみにしている。先ほど会長より話のあった文部科学大臣表彰は運営協議会での受賞になるのでお祝い申し上げます。学校運営協議会で頂いた意見を教育活動に反映させて地域連携を進めてきたということが評価された。また、1/22(水)に参観いただいたコース別探究学習発表会において、皆様から頂いた助言が生徒達のモチベーションを大いに高めてくれているところも評価されたと聞いている。

本会の目的は学校・地域・保護者が組織的・継続的に連携しながら一体となって子供たちの教育や魅力ある学校づくりに取り組むとなっている。本日もその趣旨にそって、各報告をさせていただく。その上で、学校運営の総括についての意見交換をお願いしたい。

4 協議

(1) 令和6年度学校評価アンケート報告

11月中旬に保護者・生徒・教員対象にWebアンケートを実施した。概ね例年と同じ傾向であった。保護者アンケートで、昨年度より「そう思う」が5%以上ア

アップした項目は項目 2 (コース制)・12(いじめ対応)・13(生活指導)・14(相談対応)であった。3者面談やいじめアンケートの実施、担任の対応等がこの結果につながったのではないかと思う。また、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計が高い項目は、項目 6 (ボランティア活動)100%・19(メール一括配信)99%・15(学校行事)96%・2 (コース制)95%である。陶器市ボランティアなど様々なボランティア活動への協力が評価されている。また、学校行事等の様子が、生徒から保護者に十分に伝わっていると考えている。コース制については、保護者の理解が浸透していることがわかった。一括メールは今後も推進していきたい。

逆に、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の割合が昨年度より高くなった項目は、項目 22(家庭学習)・20(PTA 活動への参加)であった。保護者からみると、家庭学習時間に不足を感じているようである。また、高校の PTA 活動は小中学校に比べると活動が少ないことが考えられる。コロナ禍を過ぎて PTA 活動の在り方も変わってきており、今後の検討課題である。

生徒の回答は保護者と同様の項目が伸びている。また、項目 7 (工夫した授業)や項目 19(学習や部活動に集中できる環境)が昨年度より高くなっており、平日頃の授業等への工夫改善が生徒に伝わっている様子も見取れた。

教職員の回答はいじめ対応や生徒の安全・安心への対応に力を入れている様子が見える。

(2) 令和 6 年度学習に関するアンケート報告

12月16日(月)～20日(金)に生徒対象の Web アンケート(無記名)を実施した。

学習スタイルは、自主的・計画的に学習に取り組める生徒もいるが、約半数はその他の 4 項目(周囲の雰囲気、気分次第等)が多く、例年とほぼ同様であった。本校生は進路を決めるのが遅い傾向にあり、それが学習スタイルにも表れていると考えている。進路意識を高めるため、進路ガイダンス等、外部講師を招いて広い視野を持てるような指導をしている。学習状況では、学年が上がるにつれて「とても努力している」割合が減っている。「ある程度努力している」という生徒は 5～6 割いるが、気分次第で学習に取り組み計画的に進められない、スマホやテレビに気を取られる、といった理由が考えられる。学習時間について、平日は「全くしない」「30分程度」が多いが、定期試験前(学力向上週間)にはよく学習している。1年生は中学校の延長で家庭学習が習慣化しており、2週間以上前から試験の準備を進めている生徒もいる。一方、試験勉強を「前日にする」や「ほとんどしない」生徒も若干数いるので、意識や意欲を高めるため、課題内容の工夫等を行っている。各種検定については、希望者対象の検定では申込者が少ないため、生徒のモチベーションを上げる必要がある。また、各コースの検定や全員対象の検定では授業等を利用し、生徒のモチベーションを上げる必要がある。

コース制について、選択したコースについては 9 割の生徒が満足している。また、コース独自の科目へ興味関心は高く、教員の励みになっている。一方、自由

記述ではいくつかの要望もあるので、今後、各教科で検討をしていきたい。

(3) 令和6年度進路状況報告

今年度は進学者数 66 名、就職者数 80 名となった。コロナ以降、就職者数が進学者数を上回っている。その要因としては、学費が支払えない等経済的な理由が多い。また、2月現在で管内の有効求人倍率は 2.11 倍、県内は 3.06 倍となっており、就職に有利な状況もある。

公務員合格者は 3 名で、令和 2 年以降継続的に合格者がいる。勤務地については、北はさくら市鷺宿、南は佐野市のアウトレット、東は筑西市、西は宇都宮市のさつきロード手前あたりまで広がっており、広範囲にわたっている。今年度は今までになかった金融業の栃木銀行に 1 名合格した。製造業はこれまで 90%を占めていたが、今年は 70%ぐらいであり、建設・運輸業がやや増えた。

(4) 令和6年度通級指導の取組について

通級指導教室を今年度立ち上げた。教室名の「なないろ」という名前が徐々に認知されている。部屋は、1人で集中できるスペースや、何人かで囲めるテーブル、マットを敷いたりソファを置いたりしたスペースを用意した。また、生徒用と保護者用のパンフレットを作って広報した。自分から申し出る生徒がいないので、担任から情報提供してもらい堅苦しくないように雑談から対応を始めた。これまで、特別支援教育コーディネーターと通級指導担当者 2 人が 5 名の生徒と面談した。本格通級に向けた準備として、校内委員会で生徒の学習面・生活のための困難を改善するための学習の必要性を判断し、個別の指導計画を作成した。本人・保護者の同意を得たのは 2 名で、3月より本格的な指導を開始している。面談した生徒の内 2 名は継続的ではなく、数ヶ月に一度の指導で大丈夫と判断し、残り 1 名は進路変更となった。通級の指導内容は、自己理解、自己管理能力（基本的生活習慣の確立）等である。得意なことや苦手なことを整理したり、自立に向けた生活について一緒に考えたりしていく。

<(1)～(4)質疑応答>

- 益子星芳高校は就職者が多いので、通級指導で自立が促せるのは良い。
- 通級の取組は良いと思う。小中学校では不登校生徒が増加しており、高校でも増えてくるだろう。高校全体で取組んでいる学校は他にはない。始まったばかりだが期待している。
- アンケートは保護者からの肯定意見が多い。就職者はほどほどの勉強で大丈夫なのではないか。本校は目標を決めて入学するというより、将来について迷いながら入学する生徒の方が多いと思う。2年生になっても迷っているのかもしれない。1年生のうち方向性が見つかれば良い結果につながるのかもしれない。自分たちの世代では就職が多く、就職を考えている生徒は益子高校を選んでいて。テレビで、今は大学生の初任給が 50 万で週休 3 日という情報を聞き驚いた。高

校もかなりいい条件で募集をしていると思われるので、就職を選ぶ生徒が多いのかもしれない。企業も人が足りないから早めに押さえておきたいのだろう。自分たちの10歳下あたりがベビーブームだったが、これからはどんどん人は減る。就職するのには良い環境になりすぎているのではないか。

- 保護者の肯定的意見が多いのは、魅力ある学校運営ができていないのか。生徒が楽しく活動している様子が、アンケートからも窺える。益子芳星高校への進学希望者はコース別で自分の興味関心に合わせた学習ができることに魅力を感じているようだ。行きたい学校に行くか自分の力で入って頑張れるという基準があるが、本校を選ぶ生徒は後者が多い。カリキュラムに対する魅力は高いが、高校入学後の見通しが立っていないので、学校生活を通して社会に関する視野を広げてほしい。そうすることでより実感を伴って進路に向かっていけると思うので期待している。
- アンケートでは、「コース制の説明の分かりやすさ、生活指導における保護者(家庭)との連携」が良い結果となっている。家庭との連携や対応は、先生方にとっては大変だと思うが素晴らしいと思う。コース制は、進学した後につながるので、各コースで学べる内容や卒業後の進路についてわかりやすく理解できるように、中学生に対して具体的な説明があると良い。
- アンケートに回答しているのは、比較的活動に真面目に取り組む保護者と生徒で、その意見が反映されていると感じる。保護者が積極的に関われば先生方は親しみやすく対応してくれると言う実感はある。しかし捉え方の異なる家庭も少なくないと思うので残念に思う。あるべき組織を有効に取り入れたらもっとスムーズに運営できるのではないかと思う。3人の子供たちは全員この学校でお世話になり、それぞれ異なる進路を進んでいる。長男の時代は、女子率が高く保育と看護に特化している印象があった。コース選択が細かくなったことで進路が明確でなくなってきた印象がある。ここ最近は進学とは言え、専門学校への進学者が多いと思う。どのような就職が待っているのか、生徒の保護者に説明しにくい部分もある。進学は進学校に任せて専門職(保育や看護など)に特化したアピールをするのも良いのではないか。
- 卒業式で以前関わった生徒の成長した姿を見ることが出来て嬉しかった。特色選抜で受ける生徒は、コース制を理由に挙げる生徒が多い。その時は保育士になりたい、たくさん資格を取りたいなどという声が聞こえる。就職に有利な資格はどういったものがあるのか。資格と就職の関連や、その資格を取れる環境が整っているのかをもっと明確にしておくと思う。
- ◎ ビジネス文書実務検定については1～3年まで毎年挑戦する。3級から始めて、合格状況に合わせて受験する級を上げていく。筆記と実技を両方クリアしないと級が取れないが、2級までは合格できる生徒もいる。栃木銀行に就職が決まった生徒は1級を取得した。検定の内容は、エクセルやワードなど就職後必須となるパソコン操作である。就職先から取得資格の指定はないが、検定試験を通して勉

強する姿勢を持っている生徒を望んでいるという話はある。

- 進路意識を早く持たせた方が良いとの話があったが、より良い就職先を見つけるためには、どのような勉強をしたら良いのかを考えさせることが大切だと思う。子供の数が少なくなっているし転職も多いと聞く。早くから目的意識を持たせて、どのような進路選択をすれば良いのかと言う考え方を身に付けさせて欲しい。

(5) 令和6年度学校運営の総括

第1回の会議で提案し承認いただいた学校運営に関する基本的な方針で、次年度さらに修正を加えたほうがよいのではないかと言うところがあればご意見をいただきたい。今いただいた様々なご助言は生かしていきたいと考えている。

令和6年度の重点目標(●)で、学校評価アンケートの結果、基礎学力の定着を図る部分でやや良くない結果が出ているのが課題である。家庭学習についての取組が、保護者アンケートでは肯定的な意見が低くなっている。一方、生徒アンケートでは家庭学習に取り組んでいると言う項目は上がっており生徒は生徒なりに頑張っているつもりではある。生徒の自己実現に向けた教育の充実(1)のわかる授業の展開や学習意欲の向上はある程度目標を達成できているが、基礎学力の定着について家庭学習が課題となると感じている。中学校では基礎学力の定着について、どのような取り組みをしているのか知りたい。中学校あるいは小学校の段階でつまづいている生徒がいるように思う。認知的な部分であれば、通級指導で個別に取り組んでいくという方法も考えられるが、そうではない生徒も多数いるので有効な方法があれば教えて欲しい。次に、特色ある教育課程の編成と実施(3)の通級については整備が進んでいる。通級を活用して、本校に求められるものはどんなものを教えていただきたい。最後に、地域とともにある学校づくりの推進(1)では、積極的に情報を発信し成果を上げられた。(2)の地域との連携、地域貢献活動の推進について、さらに良い取り組みがあればご意見を伺いたい。

(6) 意見交換

<基礎学力の定着について>

- 中学校3年生だからかもしれないが、3年生は学習意欲が高い。1、2年生はのんびりしているのでなかなか高まらないと言うのが現状である。生徒が興味関心を高めて授業に臨めるような授業改善に現在取り組んでいるところである。中学校に学力向上推進リーダーが入った。週一回、授業参観し、より関心を高め、生徒がわかることを実感できる授業作りについて助言をいただいている。問題集を開いて、繰り返し学習することは生徒にとってハードルが高いことであった。益子町で導入してもらったタブレットを活用し、AIによるドリル学習を始めた。月ごとに範囲を示し、最後に確認テストを実施するというサイクルでタブレットを持ち帰らせドリル学習をさせることを始めた。目的外の活用をする生徒もいるが、取り組んだ成果を賞賛しながら、励ましながらドリル学習を進めているところである。少しずつであるが、ドリル学習で力がつくという意識が持てるように

なり、紙媒体でも成果が実感できる生徒が出てきた。

- 田野中学校も七井中学校も小学校からメンバーが変わらない。外からの刺激がなく、勉強に対する競争心もない。素朴でのんびりしている。今年度から学力向上推進リーダーが入って、先生方の授業へのアドバイスをもらっている。学力が高い学年もあれば、低い学年もある。本校でも、家庭学習の充実が課題で今年度取り組んできた。生徒が興味を持つような課題を提示する事はもちろんであるが、課題の提出状況を把握し、提出できない生徒には計画的に丁寧な指導をしている。
- 本校でも、学力向上推進リーダーに週一回来ていただき、授業研究をしていただいている。まずはわかる、できる、そして定着するということをスローガンとして掲げている。定着すると言うところが難しい。まず興味を持ってわかろうとするかどうかが第一条件である。授業の基礎に戻って狙いの明確化とその振り返りを授業の中で必ず実施することを先生方にお願ひし、学力向上の推進を図っている。かつては振り返りは授業の中ではそれほどやっていたが、広瀬先生はだいたい前から自分の言葉で学んだことを表現させることが大切だと振り返りの大切さを説いている。自分の言葉で学んだことを表現させることが家庭学習の定着につながるかはわからないが、まずは学校の中で定着させることが大切だと感じている。高校は小中学校とは異なり、同じ目的、意識を持った生徒が集まってくる。その目的に合わせた学習をさせていくことが高校の強みになるのではないかと思う。

<通級について>

- 現段階で通級は放課後の1時間と言うことであるが、必要な生徒のニーズが高まったときに心配である。通級による支援指導は自立的な面が高まる効果がある事は知られているところなので、今後の取り組みについて期待したい。
- 通級に期待するところが大きいですが、通級は具体的にどのようにやっていくのか。毎日放課後やっているのか。
- ◎ 毎日ではなくできるところでやっている。基本的には放課後設定しているが、部活などの兼ね合いもあるので、生徒に合わせて臨機応変に昼休みや隙間の時間に対応している。
- 自分の子供たちは、茂木小学校から茂木中学校であった。通級指導のシステムがあり、早いうちから有効的に活用したほうが良いというアドバイスをもらい通級を活用した。早くから特性や個性に合った指導をしてもらうことができた。学校と言う子供が時間を多く過ごす場所で自分を認めてくれる大人の存在は大きい。子供は自分に何ができて何ができないかをよくわかっている。そしてそれを周りにばれたくないと思っている。地味なおとなしい子でもきちんと見てくれる先生方に恵まれれば、自己肯定感が高まる基礎学力の定着は必要だと思うが、自己肯定感が高まれば、自分が何者で何をしたいか、本人の中に気づきが芽生えてくれば、進路の捉え方が違ってくるのではないかと思う。三男は社会に出て働くと言うことにすごく意欲を持っている。勉強は嫌いだが、自分の個性をきちんと

認識している。大人の力は子供には偉大であると思う。当たり前の上下関係ではなく、中学校と情報共有により手探りでの対応時間が短くなると思う。そうすることで子供の怯える時間が少なくなることで早く自信を持つことができるようになると思う。

<地域との連携について>

- 七井中学校は近いので、バレーボール部や吹奏楽部などとの交流を持たせていただきありがたい。新たな交流の場の設定も今後考えていきたい。
- 焼き物業界の人間として陶器市ボランティアにはとても感謝している。お客さんからも感動を得ている。高校生の観光ボランティアはあまりないので、益子町の特徴になってほしい。豪華寝台列車四季島（しきしま）のコースに益子参考館が選ばれ、岩瀬駅からお客さんが来る。濱田館長がアメリカに出張した時、ボランティアさんが館長と違う話をしてくれて、とてもお客さんが喜んだ。歴史など様々なことを勉強してもらい、観光ボランティアに取り組んでほしい。大人になった時、その知識を地域にいかしてもらえるのではと期待している。益子参考館と益子陶芸美術館の知識を持って紹介してくれる高校生が欲しい。

益子焼支援センターでは1年間勉強して独り立ちする。ろくろは時間をかけずに作品を作るために大切なアイテムである。8時半から5時までしか勉強できないので、個人的にろくろを買い、目標と期限を設定して勉強している。目標が決まって、それに向かうお手伝いを学校でできれば、生徒の行動もより良いものになっていくのではないかと思う。学校運営協議会もそのような委員になれば良いと思う。

- 観光協会は数年前、陶芸メッセで観光ボランティアをやってもらっていたがコロナで中断。機会があったらよろしくお願いしたい。
- 大人と一緒に観光ボランティアがやれば面白いことになるのではないか。
- 今日は令和6年度の報告と次年度に向けた意見をたくさんいただきました。今日いただいたご意見の中で学校の中でできるものとできないものがあるかと思う。その中で選んで次年度活かしていただきたいと思う。

5 その他

学校運営協議会の委員の任期は2年となっている。今年度で任期満了となる方や、継続をお願いする方等いるので、改めて個別に連絡する。

本年度の本校の取り組み等に対して戴いた貴重なご意見等は、今後の学校運営に活かしていく。

6 閉会